

青森 ITS クラブの ITS 取り組み

-NPO が拓く地域の ITS-

NPO 法人 青森 ITS クラブ

1. 青森 ITS クラブの発足

青森 ITS クラブは、2001 年の真夏の暑い夜に発足した。それはある一人の情熱ある若者が、「今後の青森県の発展のために ITS を有効に活用できないのか、熱意と創意で支えられる勉強会をつくり、何かを生み出したい」という呼びかけに集まった有志達により発足した。

青森県は、県庁所在都市で全国唯一特別豪雪地帯に指定されている青森市、お城と林檎と日本一の桜祭りで有名な弘前市、そして青森県の念願であった東北新幹線が 2002 年 12 月に開業した八戸市など、雪、観光、そして交通に関わる課題が多いところである。

特に交通に関しては、他の地方と同様に公共交通機関があまり発達しておらず、自動車交通に依存する状況になっている。また、雪国特有の除排雪の問題や公共交通の定時性が確保できない等、ITS の活用が期待される課題が多い。

このような青森県の状況を踏まえると「青森県の発展に ITS を活用できないのか」という考えが浮かんでくるのも当然の環境なのかもしれない。

青森 ITS クラブは、多種多様な職種やキャリアを持っているメンバーから構成されている。広告代理店経営者、ベンチャー企業経営者、大手電器会社の社員、大学助教授、そして行政関係者等、官民一体の有志により構成され、その経験を生かし、青森県に対して「地域経済の総合力アップにつながる青森版 ITS の構築」を政策提言し、2003 年 3 月に特定非営利活動法人となつた。

2. 青森 ITS クラブの活動

青森 ITS クラブの設立目的は、わが国における道路交通の安全性、輸送効率、快適性の向上などを図るために、最先端の情報通信技術等を用いて、人と道路と車両とを一体のシステムとして構築する新しい道路交通システム (Intelligent Transport Systems) について調査・研究し、普及・啓発を図るとともに、ITS 関連事業を実施することを通じ、国民の生活向上並びに経済、産業の発展に寄与することである。

全国初の ITS 関連の NPO 法人であり、この目的のためにこれまで様々な活動をしてきているが、主な活動を挙げると以下のとおりである。

青森県への政策提言

冬季アジア大会でバス位置情報サービスの提供

ケータイ版「青森みち情報」の提供

ケータイ版バス時刻検索システムの開発

「あおもり ITS 推進研究会」の設立

第 11 回 ITS 世界会議 愛知・名古屋 2004 に出展

商店街情報と交通情報の連携「わがまちかど情報青森」の提供

バスロケーションシステムの開発

このように研究や調査のみに滞るのではなく、具体的な事業に着手し、ITS の活用を展開している。

特に「わがまちかど情報青森」にみられるように、ITS 技術を活用して交通情報の提供を行う
だけでなく、商店街情報等、これまで提供してきた有益な情報と組み合わせて交通情報を提供
するなど、情報を発信するだけでなく、情報を収集して収益に繋げ、継続的な事業として運営が
可能となるような新たなビジネスモデルの展開を行おうとしている。

3 . ITS 推進の課題

「今まで (I) たっても (T) すすまない (S) 」といわれてきた ITS が、「カーナビゲーションシステム」の登場、「道路交通情報通信システム (VICS)」や「ノンストップ自動料金支払いシステム (ETC)」の運用開始に伴い、漸く一般市民に浸透してきた。しかしながら地方都市においてはまだまだ情報格差が大きく、利用したくても利用できない状況であるとか、バスロケーションシステムのようにシステムを導入したくても採算面からバス事業者自ら導入できないとか、利用者の視点に立った整備が行われていないのが現状である。つまり、大都市では事業の収益性から様々なシステムの導入が行われるが、地方都市においては事業の採算性がほとんど見込まれないことから、新しいシステムが開発されても導入に至らないのが現実なのである。

このような情報格差をなくし、大都市にない新鮮で有効な情報や地域に密着した情報を発信し、行政・企業・市民とのパートナーシップによる新たなビジネスモデルを展開しようとしているのが青森 ITS クラブなのである。

4 . ITS 推進のための新たな挑戦

地方都市が生き延びていくためには、先にも述べたように大都市にない新鮮で有効な情報と地域に密着した情報を発信し続ける必要がある。特に、近年、青森県のように公共交通機関が不便な観光地へのアクセスとして、レンタカーやマイカーを利用する観光客が増えていることや、団体旅行から個人旅行への傾向が増加しているなど、個人客への観光情報やそれに関連した情報提供に対するニーズが増加しており、観光と交通情報を連携する新たなアプリケーションの構築が重要になってきている。

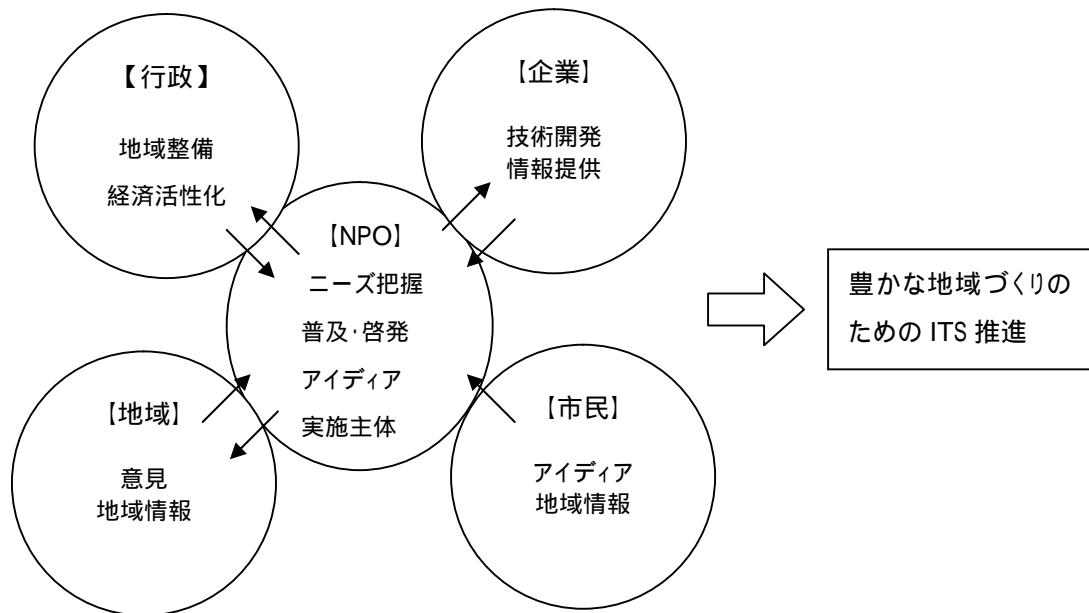
青森 ITS クラブは、この点に着目し、これまでにない「観光 ITS」の推進に挑戦しようとしている。

5. 今後の活動方針

行政や企業によって、様々な ITS サービスが進められているが、まちづくり・地域づくりのためのツールとして認知度が高いとはいえず、地域や利用者である市民のニーズを必ずしも十分に反映したサービスにはなっていないものも見られる。また関係機関が多いため、実際に導入をする際の調整が非常に難しいという課題もある。ITS をより効果的に実現するためには、地域・市民の十分な理解の上で、関係機関の連携のもと、地域のニーズに応じたサービスを導入することが重要である。今後の ITS の推進においては、地域の NPO が様々な場面において積極的に関与し、NPO と行政・企業のパートナーシップによって ITS を展開・推進していくことが求められている。

このような中で青森県における ITS 推進のため、行政や民間企業だけでは実現できなかった事業を新しい視点に立ち、創意と工夫によって実現していきたい。

行政の財政が年々厳しくなってきており、行政の立場に立って、民間活力を活かすことが重要であり、今こそ NPO が大きな役割を果たす時なのだ。



【今後の活動メニュー】

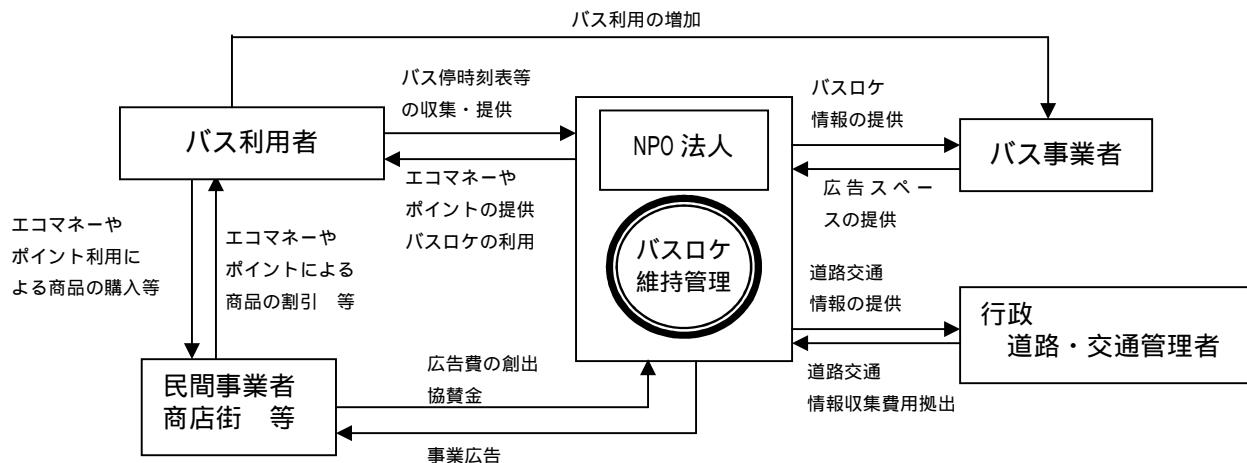
- | | |
|----------|-------------------------|
| 観光ナビの提供 | バスロケの NPO 的ビジネスモデルの実証実験 |
| ライブ映像の提供 | バス時刻検索システムの ASP サービス |
| 除排雪情報の提供 | 空港への ITS 展開 |
| | 歩行者 ITS への参画 |

【今後の実施方針】

ニーズ サービス 運営 システム構築

參考資料

NPO的ビジネスモデルのバソロケーションシステム



運営主体がシステムを構築することにより、費用の低減が図れる。

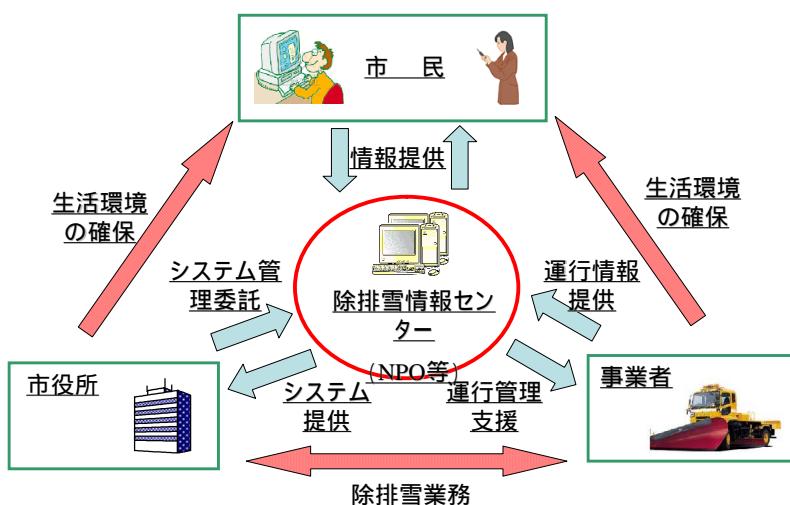
また他路線などへの転用が可能である。

システムを構築し運営することにより、活きたノウハウが蓄積される。

関係機関と連携することで、各機関の費用負担が低減し、費用対効果が高くなる。

地域・市民とのフレンドリーな連携が広がる。

パートナーシップ除排雪情報提供事業の運営体制



国・県・市 協働